

今月から、さつま町内の20区公民館が取り組んでいる特色ある活動、イベントなどを紹介します。



館長 末永 忍さん

久富木区は、さつま町の市街地から南の方向へ約7キロメートルの位置にあります。春には約1,000本の桜、夏は久富木川での水遊び、秋は稲刈り・芋掘りツアー、冬は久富木川源流ウォーキングと四季を通じて楽しみ、先月6月26日の田植えや芋植えツアーには町外の方々も多く訪れました。

また、平成7年から毎月発行の「久富木区新聞」は、今月で10年目を迎え第117号の発行が予定されており、「帰ってこいよ連れてこいよ運動」のなかでは、出郷者に年2回郵送するほかホームページも開設し、地域の情報を発信しています。



◆人口 750人、世帯数 252世帯、公民会数 5公民会

文化財



法円寺跡は、久富木城の禅寺で現在は墓石群が残っており歴史好きの方にはおすすめです。

久富木城主の子孫は鹿屋市などに居住されていますが、将来はその方々を招待し、城跡での観桜会を行う計画です。

景勝地



県道薩摩山崎停車場線の砂浦橋から南方面に見える「藺牟田連山」は、MBCのディレクターが「すばらしい眺めだ」と絶賛された景勝地の一つです。

朝・夕にその色合いが変化し、写真撮影にはおすすめのスポットです。

イベント



毎年6月の田植え・芋植えツアーと10月の稲刈り・芋掘りツアーには、町内外からたくさんの参加があります。ツアーは、今年で5回目となり、今では第2のふるさととして、あるいは家族のイベントとして楽しみにされています。また、収穫祭としての「みやんじょフェスタ」に久富木テントを出し、参加者との交流を図っています。収穫祭まで入れると年間約200人のグリーン・ツーリズム（都市との交流）になります。

活性化事業



久富木区には100haを超える水田があることから水稻をアイデンティティとして掲げていますが、高齢化による農作業の委託要望に基づき、「農作業受委託組合」を立ち上げ、約15haの受託作業に取り組んでいます。ほ場整備地区内には、耕作放棄された水田が見当たらないことが誇りです。このほか、区民総出のグランドゴルフ大会やむらづくりのための「講演会」などが行われ、活性化が図られています。